

ビジネスクリエーター研究学会 第9回大会

2012年12月2日

於 立教大学 池袋キャンパス

清酒消費量と清酒製造業数の 将来予測について

立教大学大学院 ビジネスデザイン研究科
後期課程
右田 圭司

➤ 問題意識

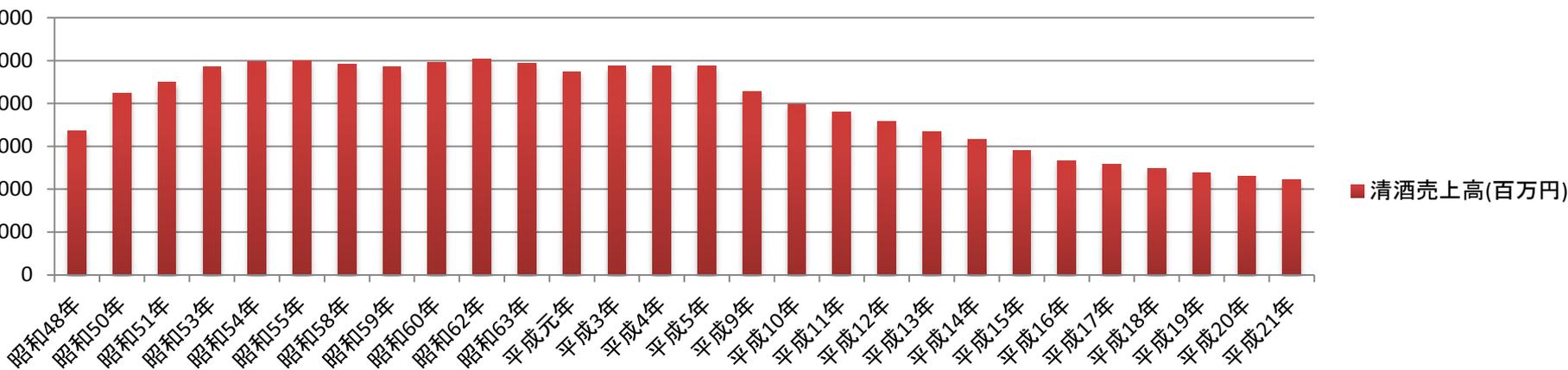
清酒製造産業の経営は一般的に低迷状態にある。昭和50(1975)年以降、企業数、製造量、売上、利益のいずれにおいても、長期の低迷状態を続けており、1998(平成10)年以降は、業界全体の60%以上が欠損または低収益の経営状況であるにも関わらず、清酒産業や個々の企業には接続可能性に対する警鐘を鳴らす雰囲気を感じられない。

➤ 目的

清酒製造産業が持続可能な産業であるか否かを、予測モデルによって検証することを目的としている。

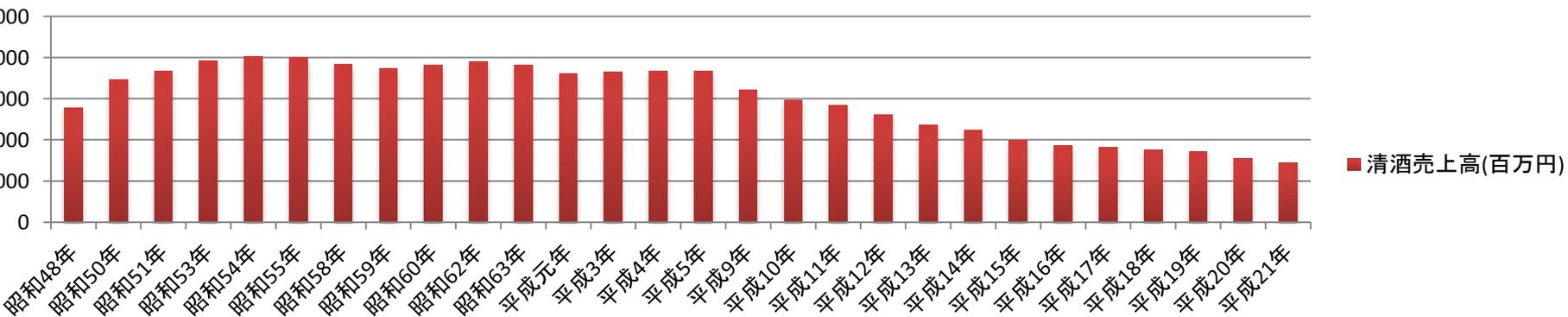
清酒製造業の業績推移(全企業平均)

全企業平均



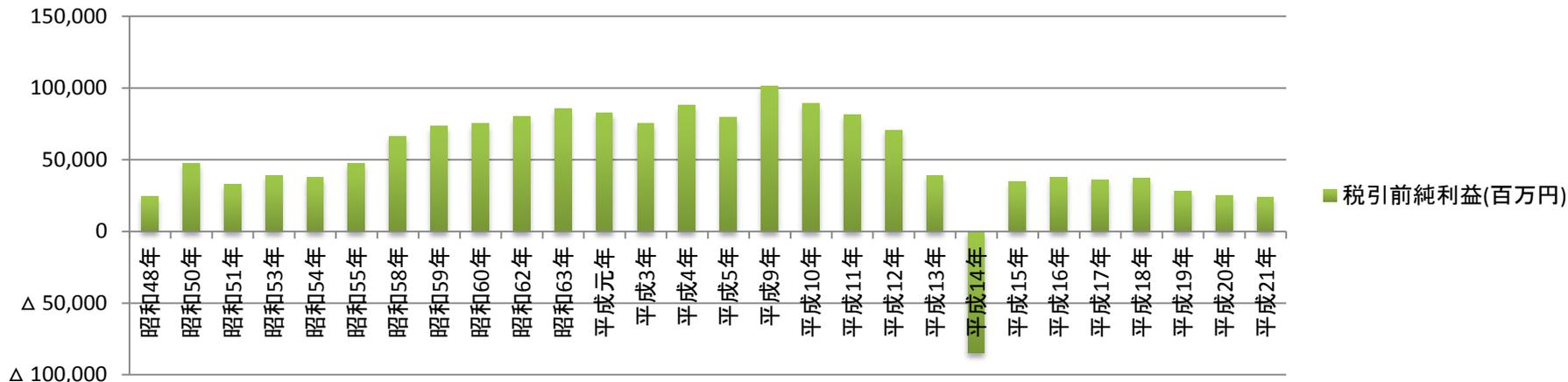
清酒製造業の業績推移(専業区分90%以上)

専業区分90%以上



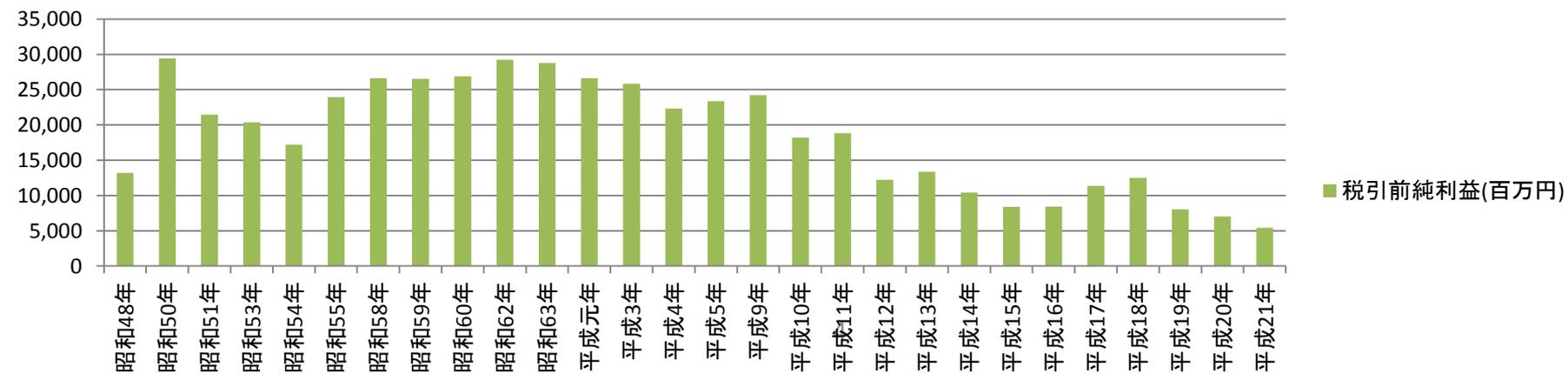
清酒製造業の業績推移(全企業平均)

全企業

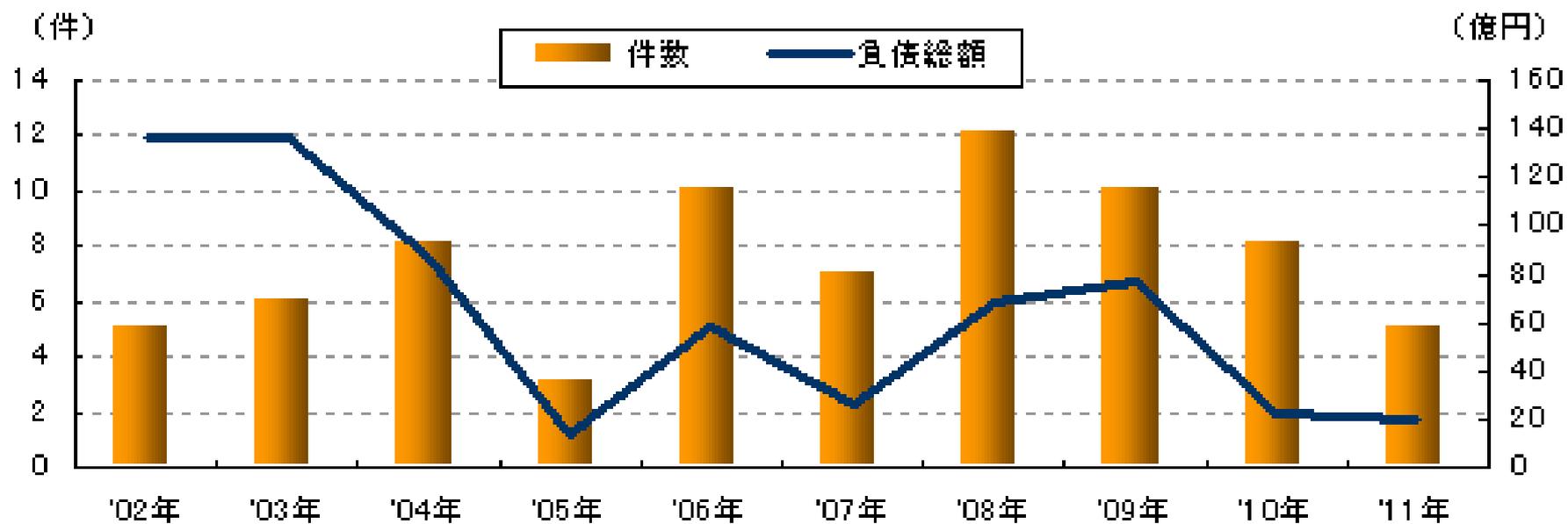


清酒製造業の業績推移(専業区分90%以上)

専業区分90%以上



日本酒メーカーの倒産推移

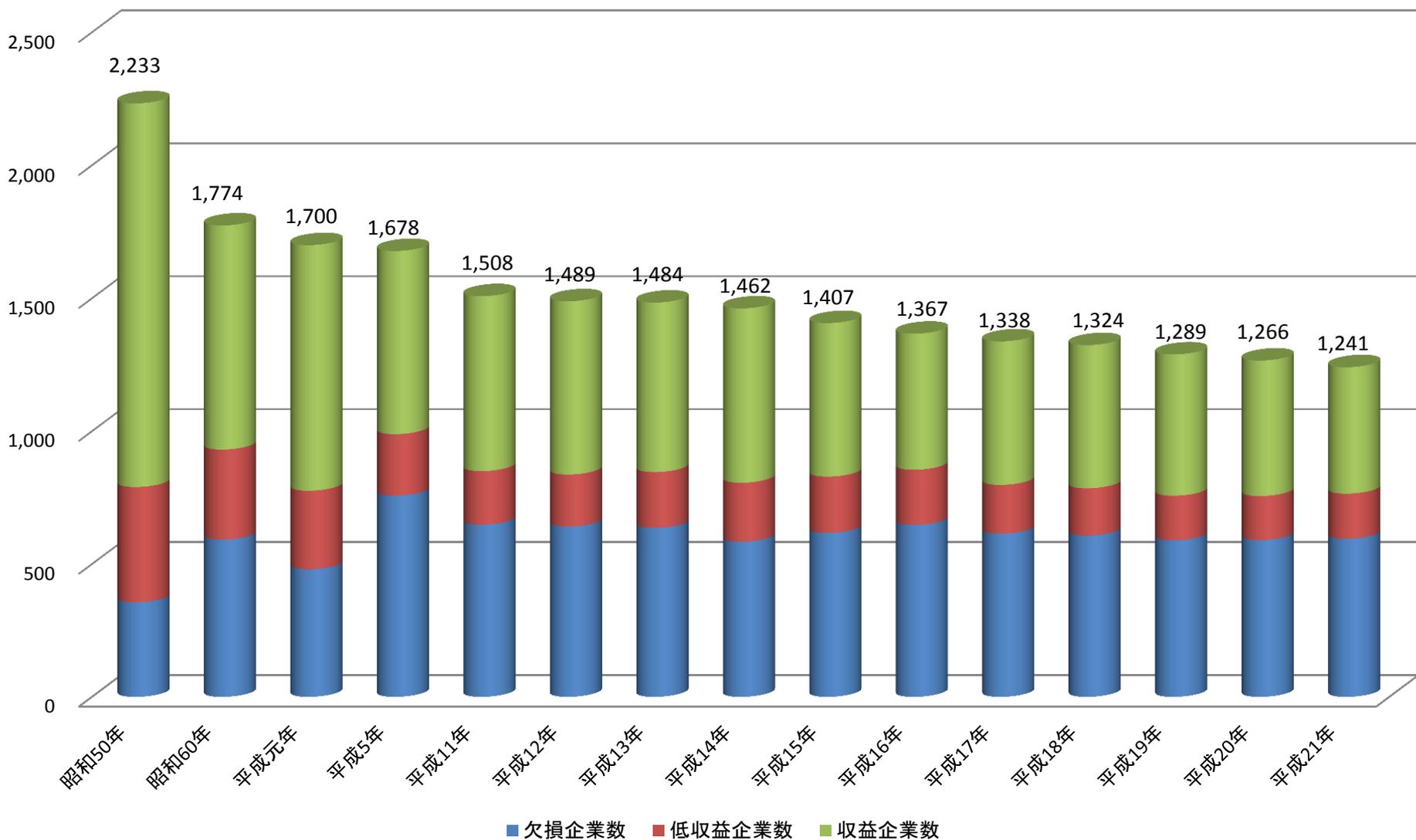


引用: 東京商工リサーチ

http://www.tsrnet.co.jp/news/analysis/2012/1219627_2004.html

S50～H21年清酒製造業者 製造数量規模企業タイプ

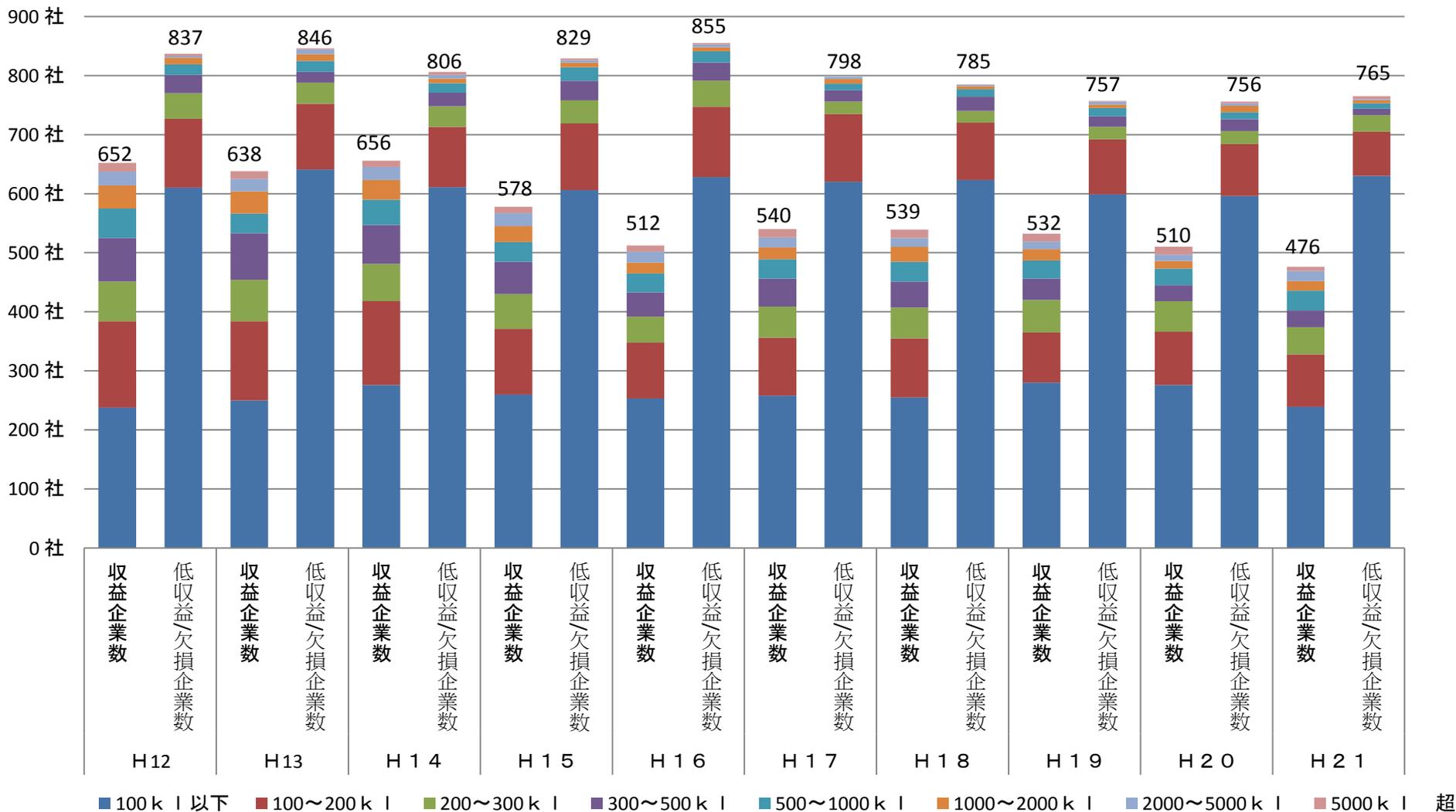
(収益企業・低収益企業・欠損企業)の推移①



S50～H21年清酒製造業者 製造数量規模企業タイプ

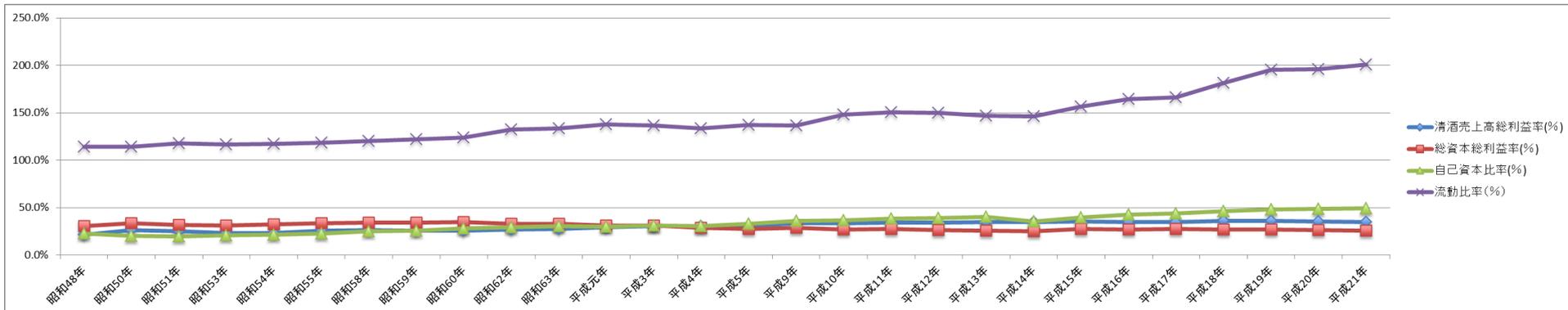
(収益企業・低収益／欠損企業)の推移②

全体

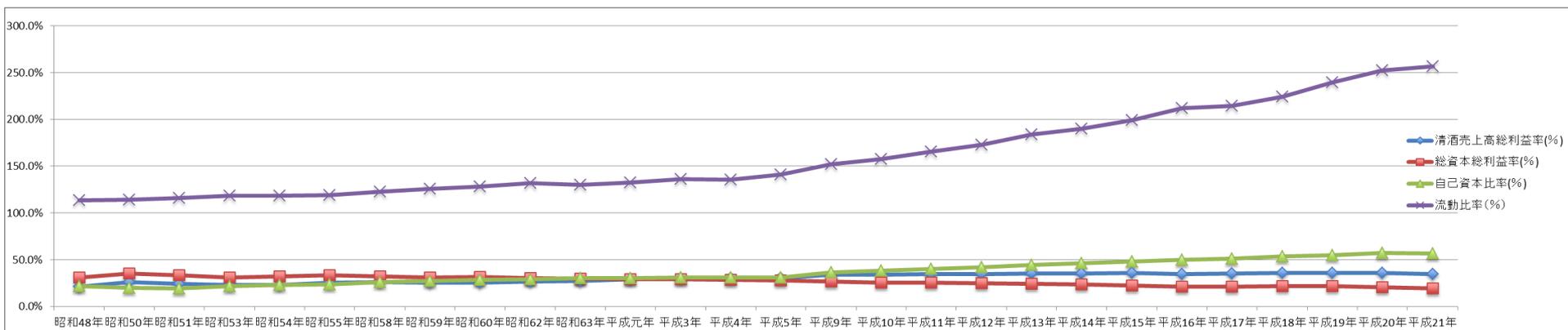


損益状況財務分析(全企業と專業90%以上企業比較)

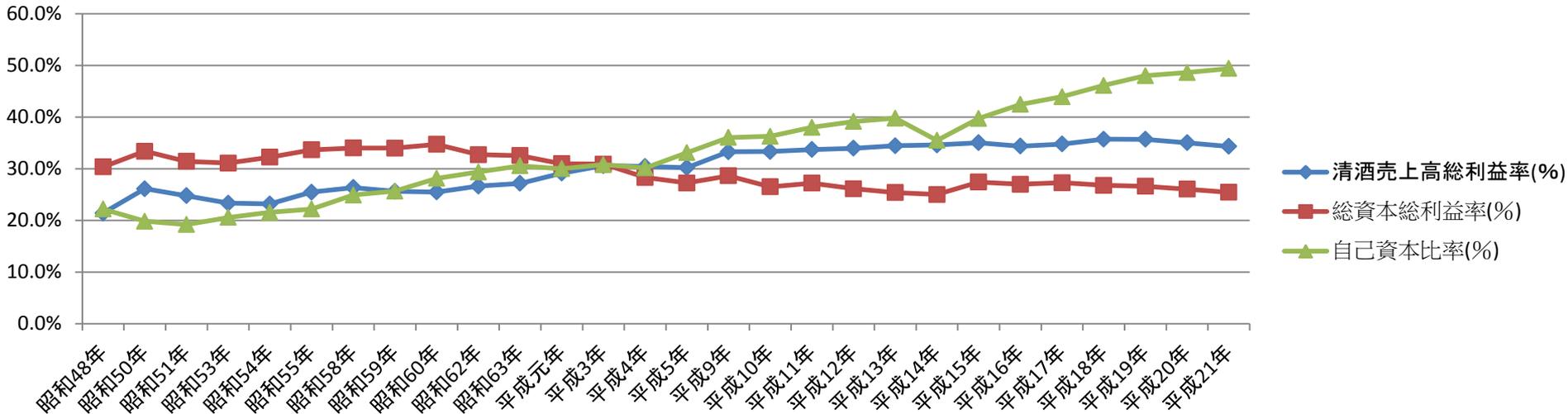
全企業



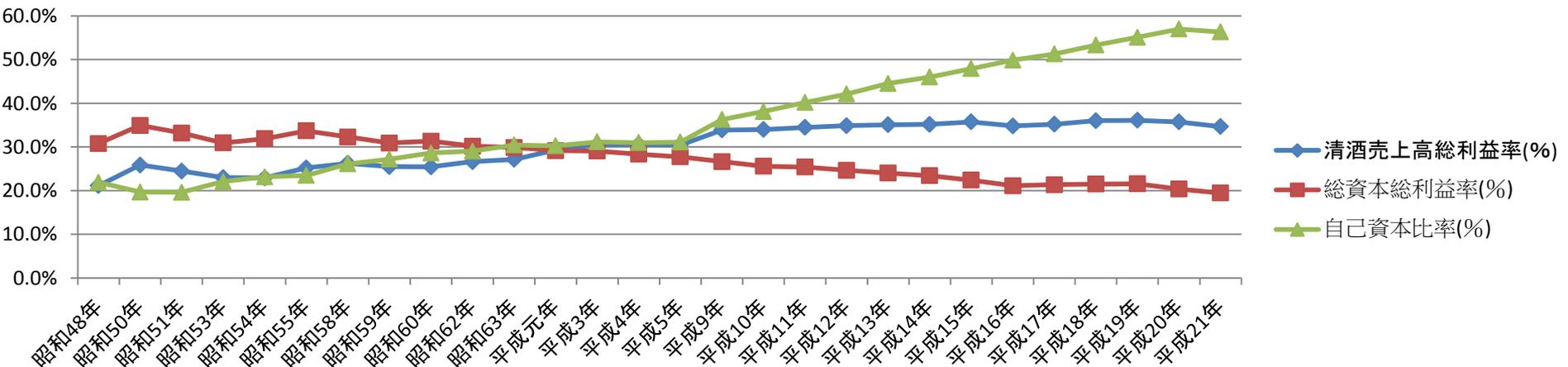
財務分析專業区分90%以上



清酒製造業の業績推移(全企業平均)



清酒製造業の業績推移(専業区分90%以上)



トレンドによる将来予測

- 近年の動向が将来にわたって大きく変化しないと仮定
 - 値段,品質,消費者の嗜好,他消費財との競合,経済状況など
- 利用データ
 - 国税庁(酒税,時系列データ,2 製成数量及び消費数量)
- 推定の概要
 - 5カ年の現況再現(2006~最新2010年度データ※2006.5,改正酒税法施行)
 - 酒類別消費量(年)=f(西暦), 最も説明力の高い指数型を採用
 - 2015~2040年度を推定
 - 対象酒
 - 清酒, 焼酎, ビール, その他ビール(リキュール類,雑酒,発泡酒の合計), ウイスキー類, 果実酒(ワイン)

➤ 酒類の需要予測について

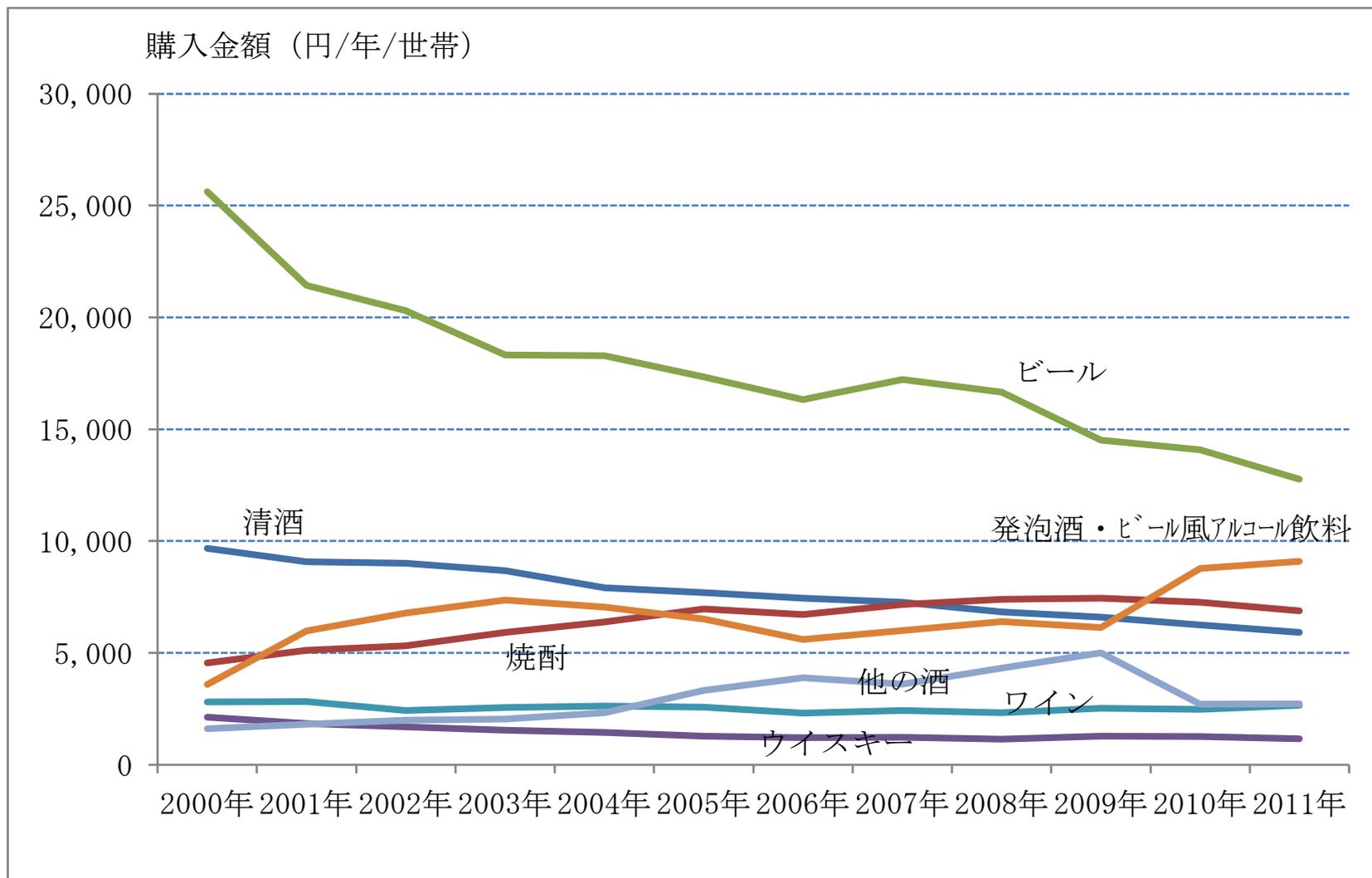
2006(H18)年度から5年間の区分別消費量データを被説明変数に, 西暦年を説明変数として, 指数型関数による消費量モデルの推定を行った.

指数型関数 区分別消費量(千kl/年度) = $\beta_0 \times \exp(\beta_1 \times \text{西暦})$

酒類別関数別消費量モデル推定結果(係数・t値ならびに決定係数)

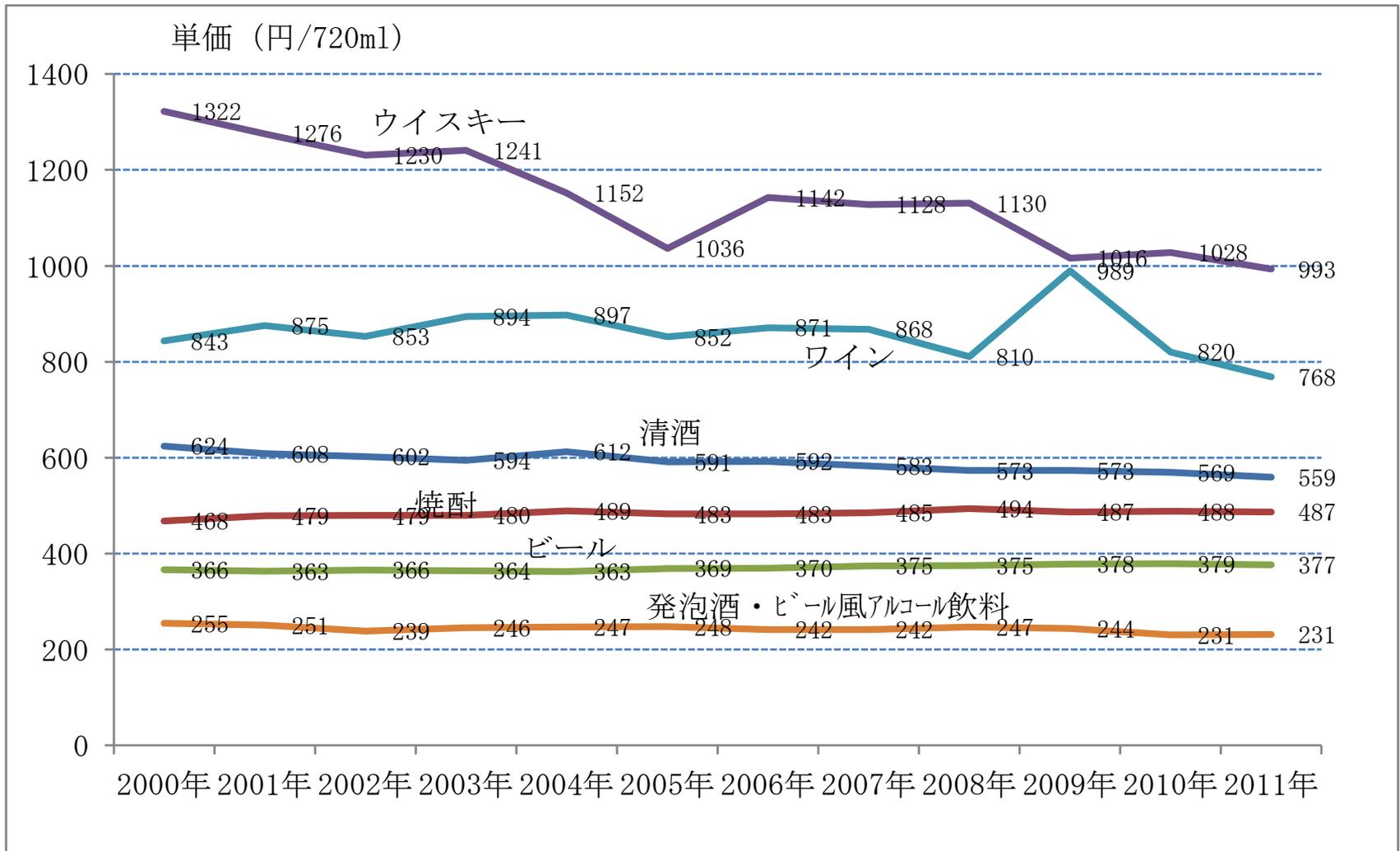
		清酒	焼酎	ビール	果実酒類	ビール,リキュール, 雑種,発泡酒	ウイスキー類
指数関数	β_0	2.01E+36	7.36E+20	2.24E+45	3.32E-24	6.58E+15	1.68E-27
	(t値)	21.13	5.72	11.99	2.35	5.02	1.46
	β_1	-3.84E-02	-2.05E-02	-4.80E-02	2.97E-02	-1.38E-02	3.29E-02
	(t値)	-19.50	-4.91	-11.07	2.59	-3.81	1.57
	決定係数	0.99	0.89	0.98	0.69	0.83	0.45

種類別酒類の購入金額



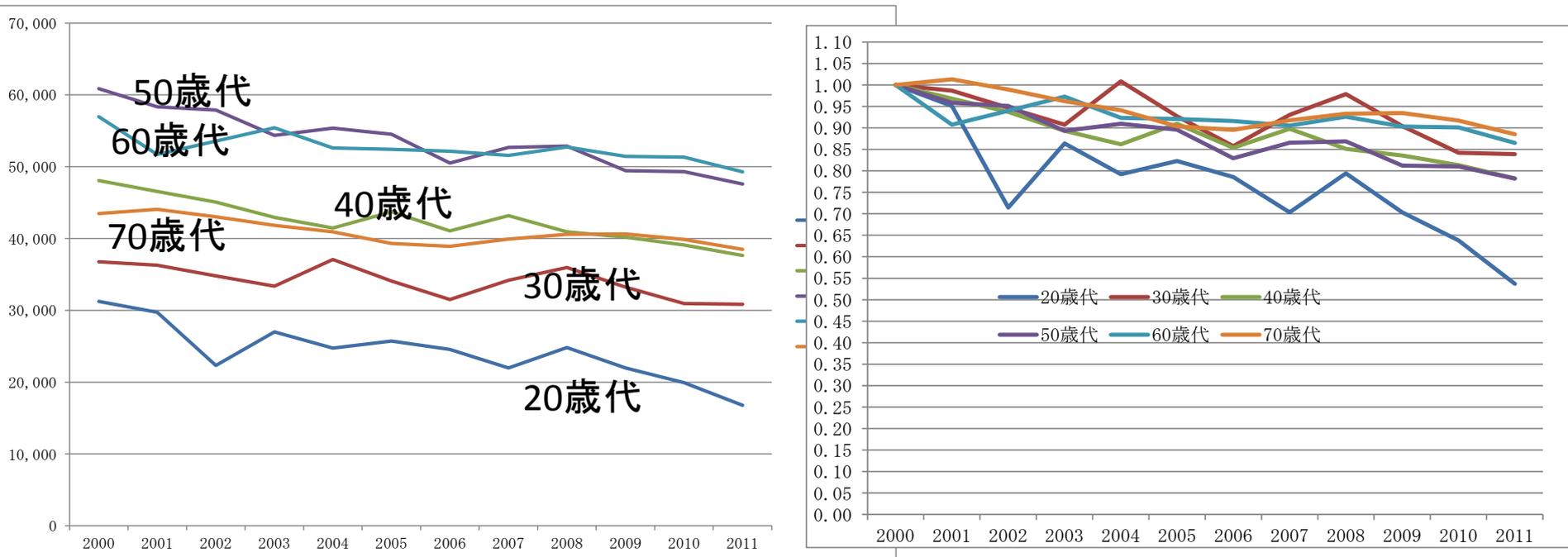
二人以上の世帯の種類別年間購入金額の推移では、ビール、清酒の減少と、発泡酒・ビール風アルコール飲料、焼酎の増加傾向が見られる。

種類別酒類の単価の推移



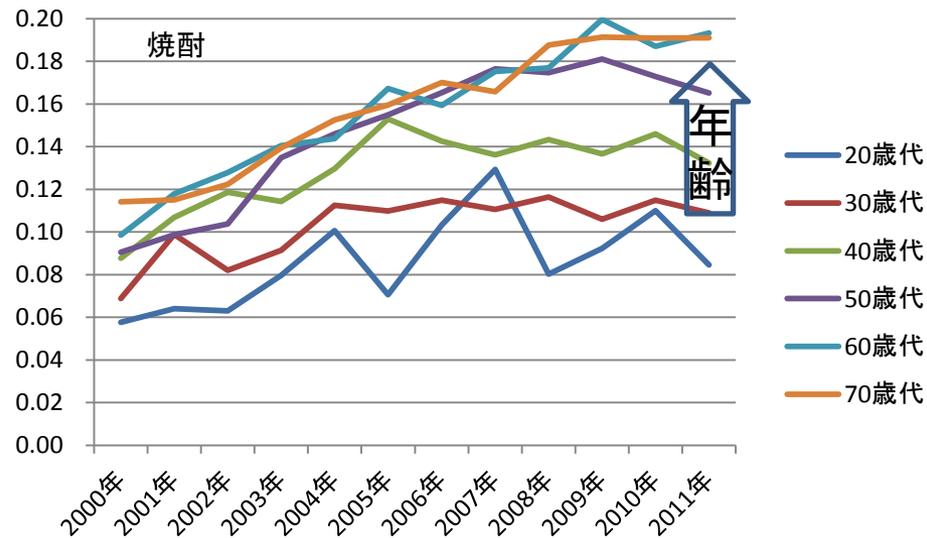
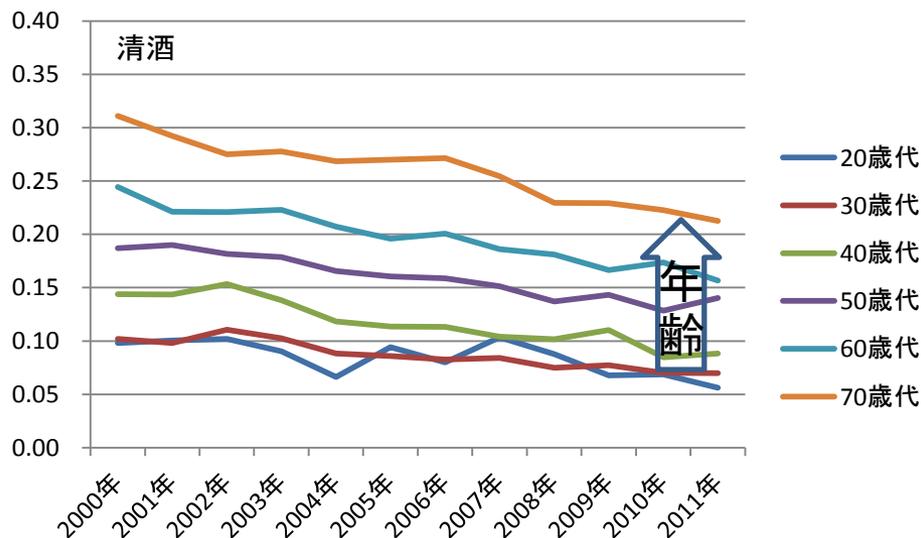
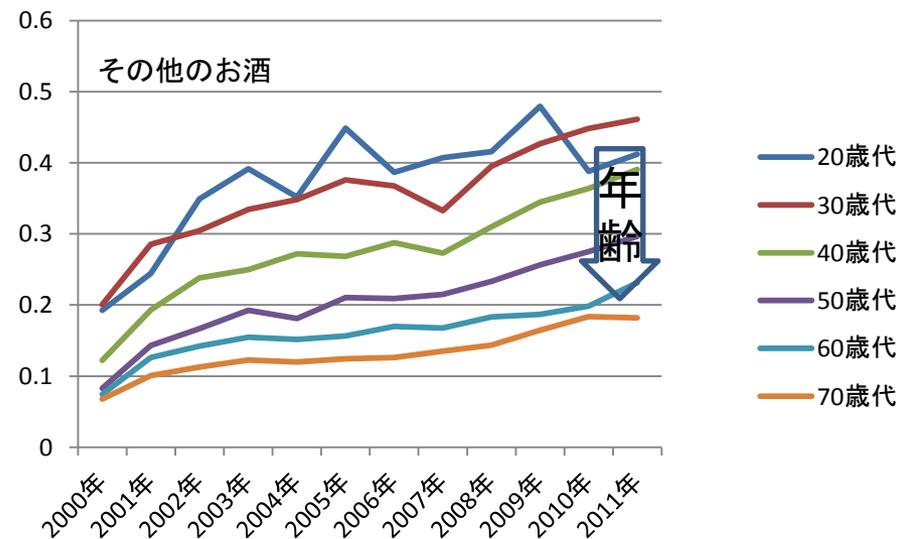
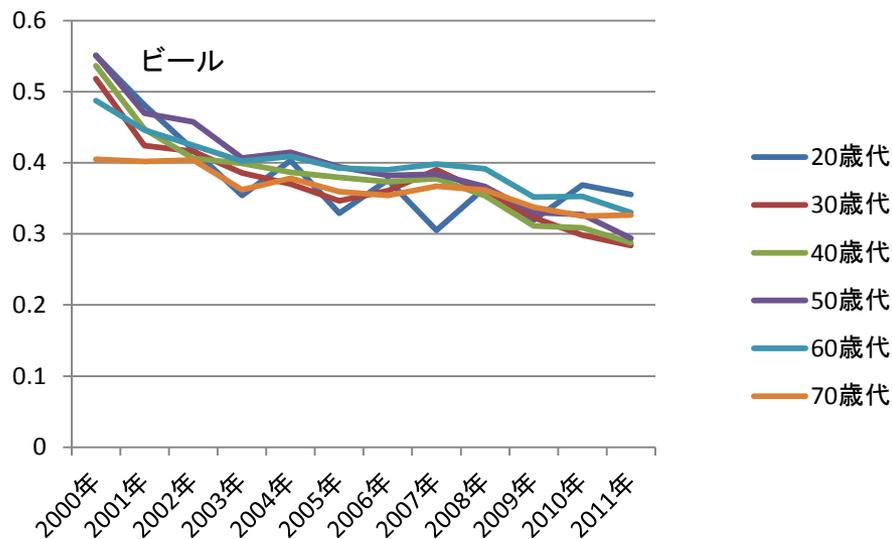
ウイスキーの減少が顕著であるが、他はほぼ安定的

年齢階層別酒類購入金額の推移(円/年/世帯)



- ・世帯主の年齢階層別に区分(年令による世帯人数に差異が存在)
- ・20歳代の減少が大きい(約50%)
- ・50, 60歳代が金額が高いが, 減少傾向が60, 70歳代より大きい.

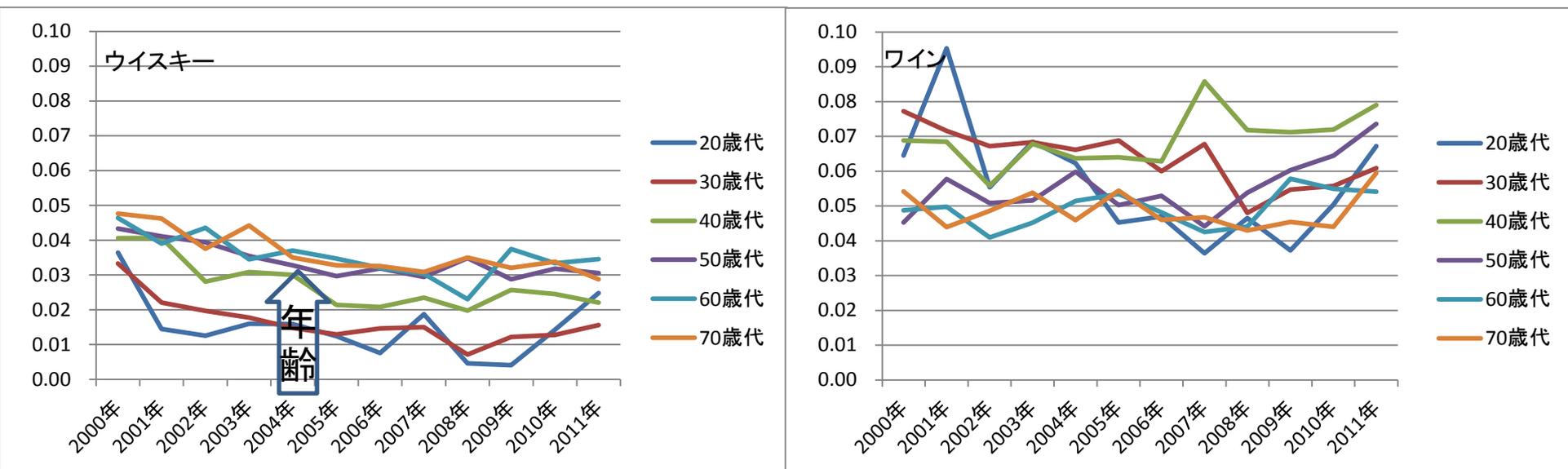
年齢階層別酒類別シェア(金額)の推移(1)



経年的減少傾向

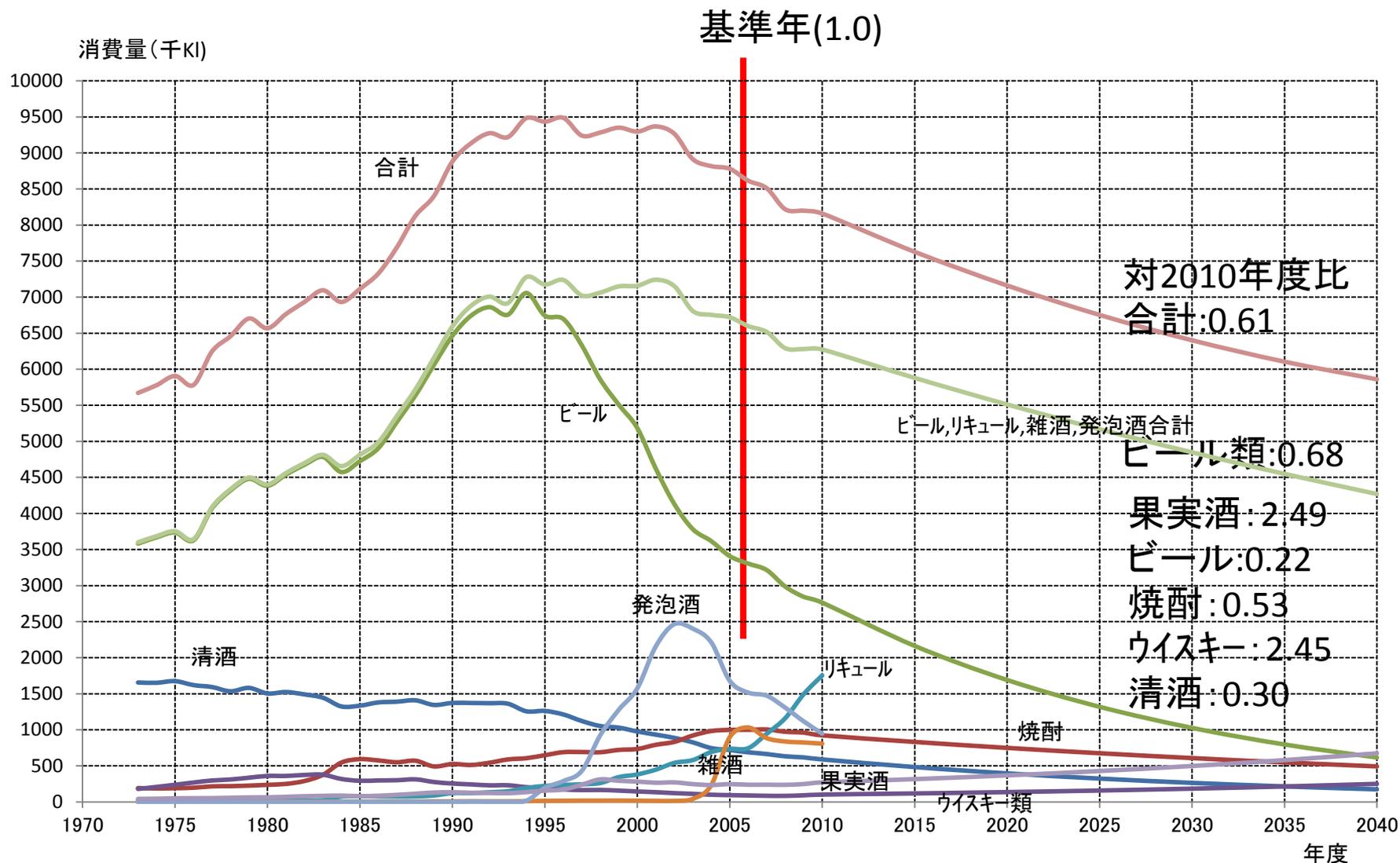
経年的増加傾向

年齢階層別種別別シェア(金額)の推移(2)



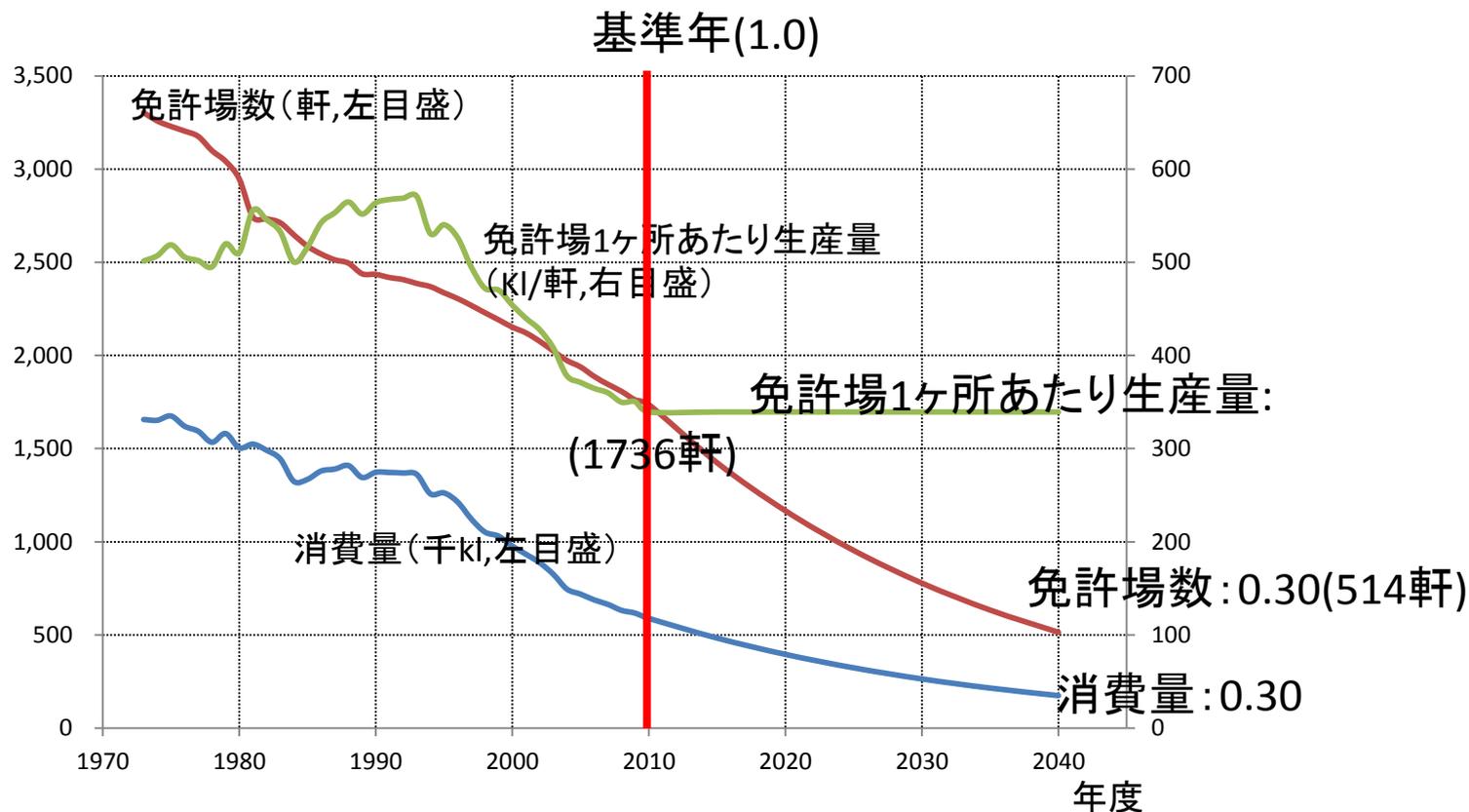
傾向が見られない酒類

酒類の消費量将来予測



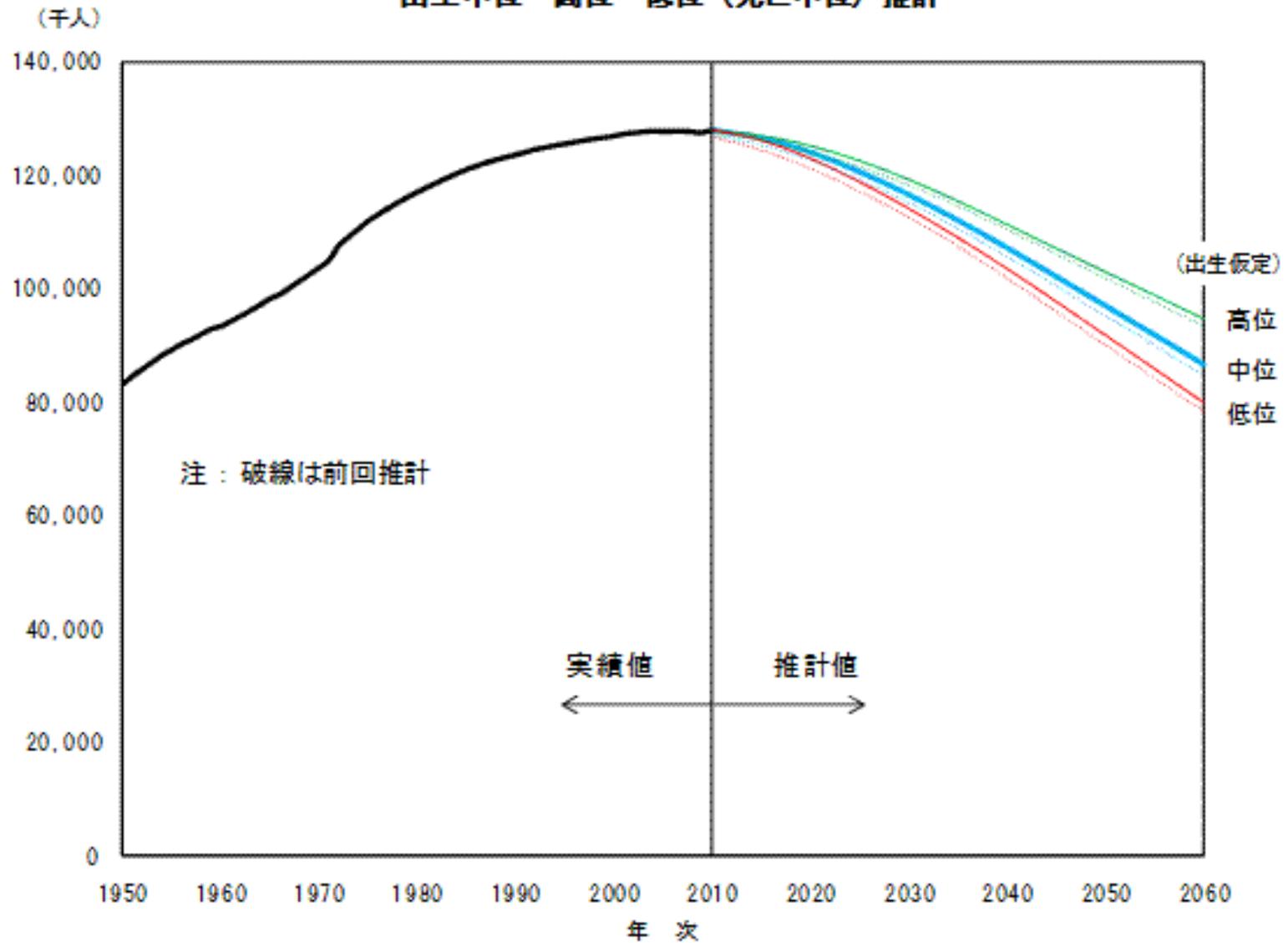
清酒 1656千kl(1973)→977(2000)→589(2010)→396(2020)→264(2030)→174(2040)
 焼酎 734千kl(2000)→1005(2007)→923(2010)→749(2020)→608(2030)→493(2040)

清酒製造企業数の推定



- ・国税庁(酒税,時系列データ,2 製成数量及び消費数量,3.製造免許場数及び販売免許場数)
- ・免許場数を清酒製造会社数と仮定.
- ・1免許場当たりの生産量は, 1990年頃最大値→近年は低下傾向
- ・将来の企業数=消費量推定値/ 1免許場当たりの生産量(2010年.固定) として算出.
- ・企業数は, 消費量の減少割合と類似した傾向(規模の大小を考慮する必要あり)

図1-1 総人口の推移
 — 出生中位・高位・低位（死亡中位）推計 —

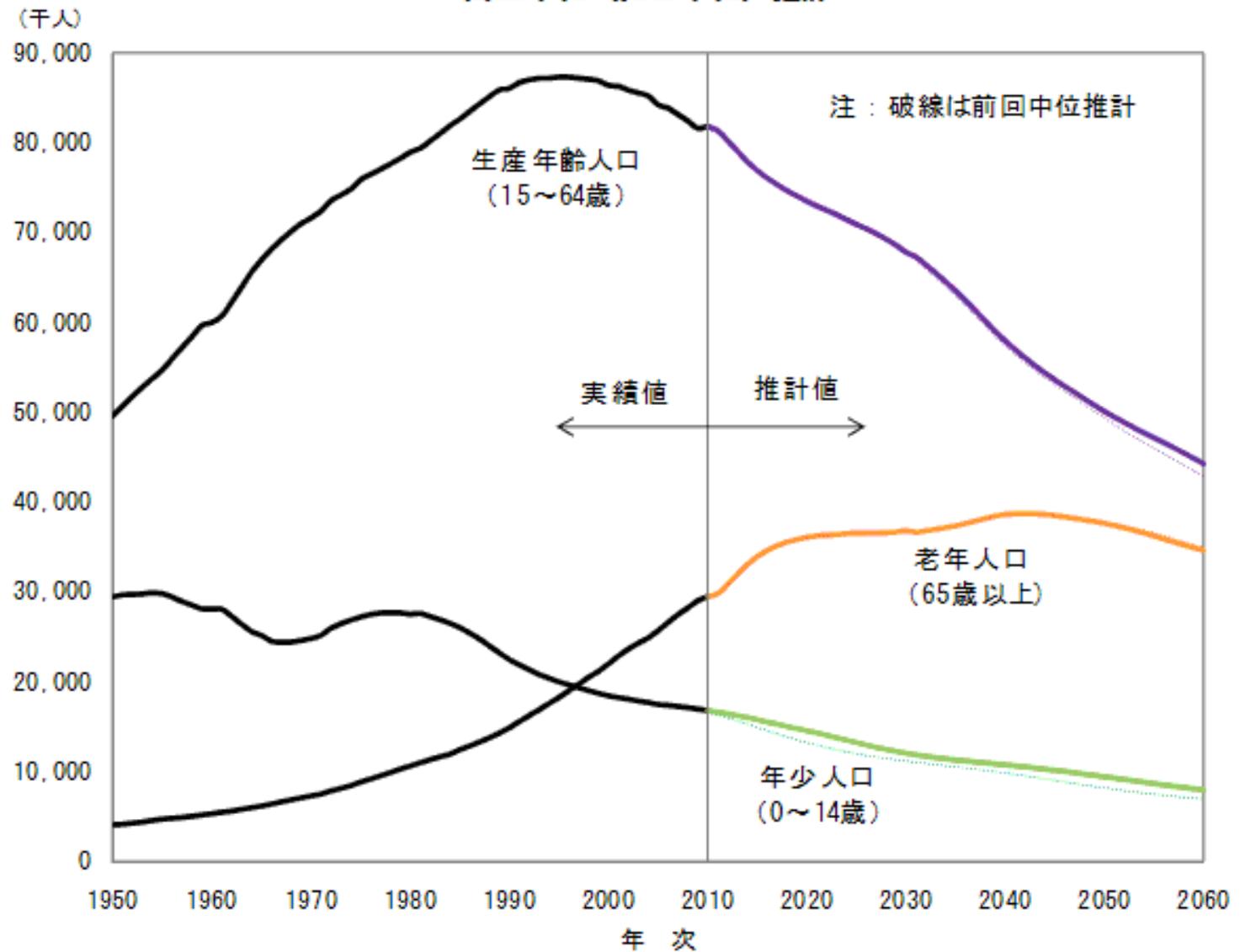


参考HP：日本の将来推計人口

<http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/newest04/sh2401top.html>

図1-3 年齢3区分別人口の推移

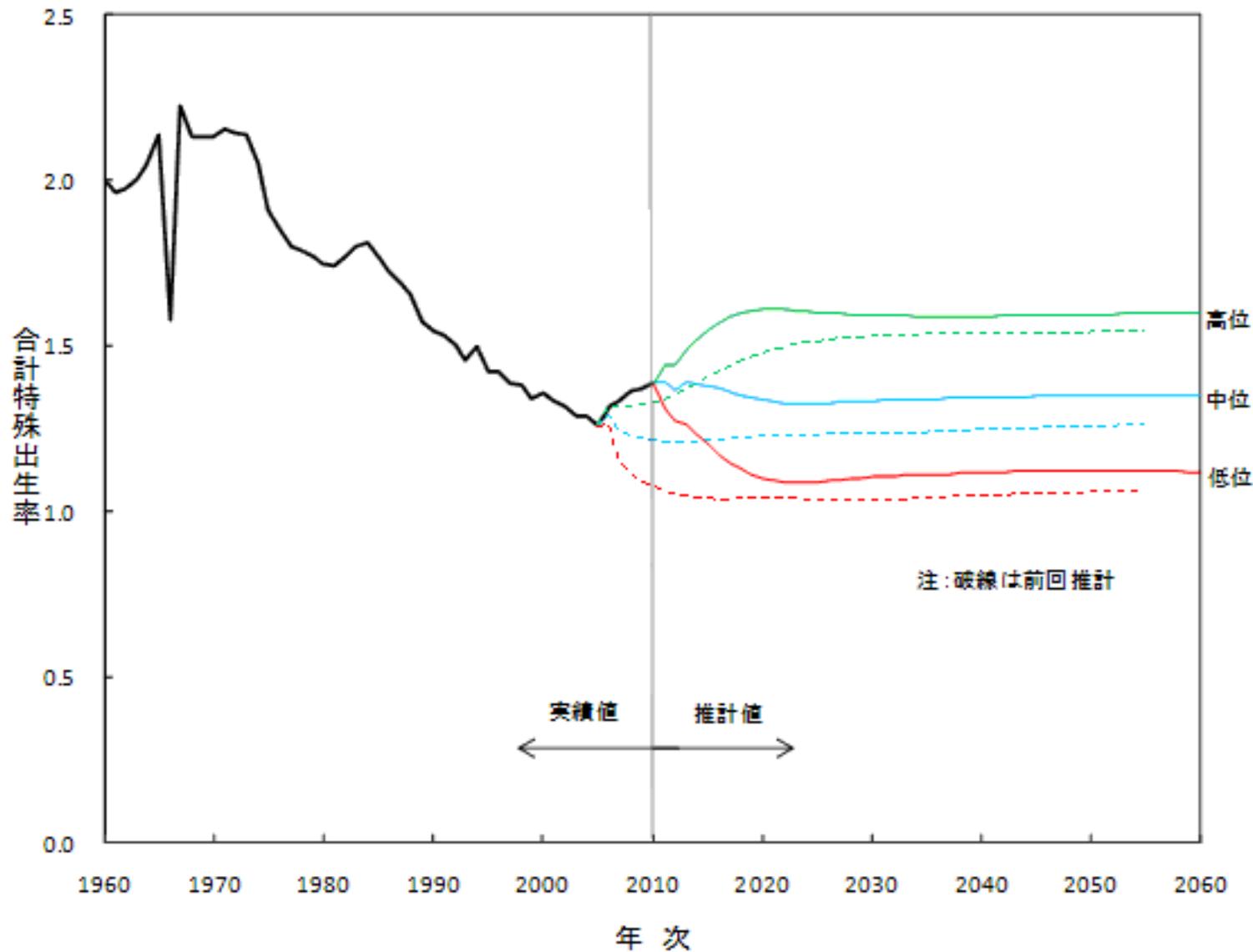
— 出生中位（死亡中位）推計 —



参考HP：日本の将来推計人口

<http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/newest04/sh2401top.html>

図4-1 合計特殊出生率の推移：中位・高位・低位推計



参考HP: 日本の将来推計人口

<http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/newest04/sh2401top.html>

まとめ

- 酒類の消費量将来予測(2040年)
 - 減少傾向:ビール(0.22), 清酒(0.30), 焼酎(0.53)
 - 増加傾向:果実酒(2.49(2040/2010比)), ウイスキー(2.45)・・・?
- 清酒製造企業数の将来予測
 - 基本的に, 消費量と同様の傾向
 - 近年は小規模製造企業が増加→需要減による影響?
- 世帯の購入量データから
 - すべての年齢階層で酒類購入額, 清酒選択率が減少傾向
- イノベーションのリミットは迫っている。
 - 2040年以降の飲酒人口が本格的に減少